

令和5年 新春経済講演会

演題 「2023年の秋田の経済展望」

講師 日本銀行秋田支店長 真鍋 隆 氏



「新春経済講演会」(秋田経済倶楽部、竜門社秋田支部共催)が1月19日、ANA クラウンプラザホテル秋田で開催されました。

講師に日本銀行秋田支店長の真鍋隆氏を迎え、「2023年の秋田の経済展望」の題目で講演いただきました。約80名の会員が出席、1時間余りの講演にメモやパソコンを操作しながら聴講している会員も多く見受けられ、今年の秋田経済への期待が感じられる講演会となりました。

「新春経済講演会」での真鍋支店長の講演は、昨年引き続いて2回目。出席した会員からは分かりやすい経済解説と多方面に亘る現状分析に高評価が寄せられており、講演の中で今年の秋田の経済予想について、「ゆるやかに持ち直しつつある先行き見通し」とした分析には期待を寄せる意見が多く聞かれました。

講演は、直前に開催された日銀支店長会議の話題を織り込みながら、2023年の経済動向を展望するうえでのキーワードとして「海外経済」、「秋田経済」、「物価高」および「賃金」の4項目をとりあげ、項目ごとに図表を用いながら詳しく解説いただいた。

一つ目の「海外経済」については、物価高騰や急ピッチでの金利上昇などで景気に急ブレーキがかかるのではとの観測もあった先進国だが、ここにきて物価上昇ピッチが緩やかになりつつあること、中国についてもゼロコロナの終焉や政府による不動産業界への補助政策の実施により、いずれも景気減速はマイルドなものにとどまるとの見方が示された。

二つ目の「秋田経済」は、昨年12月の経済調査結果から生産面で判断を引き下げたものの、個人消費と公共投資でランクアップし、今年度は緩やかに持ち直していくとの見通しだった。また、全国で唯一、2年連続で売上高、経常利益、設備投資ともに二桁の伸び率を達成し、前向きな循環が続いているとの見解が示された。

三つ目の「物価高」に関しては、今しばらくは価格上昇は続くものとしたうえで、ここにきて企業経営者の値上げに対する意識に変化の兆しが窺えるとのコメントがあった。値段をあげても売上減につながっていない状況が明らかになる中で、これまでは「仕入れコストが上昇しても顧客離れがおきないよう値上げせず、企業努力で吸収しよう」との経営者意識が、「値上げは必要、値上げしなければ」との意識に変わりつつあり、今後この意識が根付くかどうかを注目していきたいとのコメントがあった。

四つ目の「賃金」に関しては、これまで人手不足を補ってきた高齢者・女性・外国人労働者の労働市場への参入は限界に近づきつつあり、労働者の確保が困難になる中で物価上昇が続けば、賃金を上げないと人手不足が解消できない状況が早晚訪れることが予想され、人手不足を見据えた企業の賃金引上げ動向にも注視していく必要があるとの発言があった。

講演の最後には秋田の県民性や県民・市町村所得など紹介し、明るく希望の持てる1年であるよう期待するとの発言で講演を終了した。